

- 出品資格：五段以上。●用紙サイズは半切縦が角半。
- A・B課題は同時出品可能。同時出品の場合は出品券の下部にA・Bを明記すること。
- 条幅出品券を作品の右下に必ず貼付すること。(作品の裏右下には鉛筆で段位と氏名も忘れず記入)

過日、現在水明誌掲載中の臨書講座「関戸本古今集」の臨書の部を審査させて頂きました。
この条幅作品上達の為にも、古筆臨書は、必須の勉強です。甲乙つけ難い半紙臨書作品を約三百枚も拝見することが出来て、水明仮名の底力を感じたようで、大変嬉しく思いました。
まず半紙に、古筆の拡大臨書、そして条幅へ。原稿として集字した字を並べ、隣にどんな字を持つてくるか、行の流れ、墨色の変化、文字の大小、見せ場での用字の工夫など。条幅に書いた作品は、必ず、吊って見てみる。他の多くの作品を、見て、感じて、考えて、苦しんで何枚も何枚も書いてみることですね。
次回、又、条幅審査で多くの方々の作品を拝見できますことを、楽しみにしております。

かな部 次号課題

A ふかぶかと人間笑ふ声なり

谷いちめんの白百合の花 (北原白秋)

・夏の谷に俯するように人間の笑う声がひびいてくる。この谷にはいちめんに白百合の花がいま満開だ。

B ほととぎす大竹藪をもる月夜

(松尾芭蕉)

・嵯峨は大きな藪が多く、その藪の竹のすき間から月光が洩れている。空をほととぎすが鳴きすぎた。

優秀作品

〈師範・準師範の部〉

小塩美映

古筆の香りのする清楚な作。

上田紫峰

条幅紙面を大胆に使い伸びやかに布字された。

〈修士以下の部〉

折田益美

一字ずつの文字の組み立てに工夫有り。

丹羽紫香

水の流れる如く無理のない用字。

木村翠孝

変体仮名の使い方が上手。墨色再考。

永島華久

高野切一種から飛び出たような字形。

田中資子

二群の上部に比べ下部が騒がしいか。

奥本貴祥 洒落た字形が小気味よい作。「色」一考。

坂下邦春 一筆で俳句を一気に。温雅で構え大きい。

竹内穂波 行の流れに工夫有り。

井上桃華 余白を自由に使い、終句一字の墨つぎが効果的。

國村敬香 線が鋭く流暢。

中居大輔 「こか」の部分のみ目だるいが、線は手慣れていて佳。

田中夕美子 素直な作。今後行の揺れも考えてみよう。

萬谷裕子 自由自在の流れ佳。文字を正確に。

近松志津子 清廉潔白の線質魅力有。

西嶋青暎 流暢だが直線のところも欲しい。